

有識者ダイアログ

リコーグループは、企業の社会的責任に関するビジョンや目標、具体的な活動についての情報をステークホルダーにお伝えすることが、企業活動のさらなるレベルアップと企業価値の向上に不可欠であると認識しています。ステークホルダーとの重要なコミュニケーションツールのひとつである「リコーグループサステナビリティレポート」をより充実したものにするため、CSR分野や統合報告に関する専門家の方々をお招きして、ご意見やアドバイスをいただくとともに意見交換を行っています。また、それらダイアログの内容については経営層とも情報を共有し、経営やコミュニケーション活動の改善に活かしています。

サステナビリティレポート有識者ダイアログ開催概要

開催日	2015年2月20日
場所	株式会社リコー本社事業所
参加者	足達 英一郎 氏 株式会社日本総合研究所 理事 海野 みづえ 氏 株式会社創コンサルティング 代表取締役 金井 司 氏 三井住友信託銀行 経営企画部 理事・CSR担当部長 三代 まり子 氏 RIDEAL代表 リコーの主要参加者※ 大山 晃(執行役員 コーポレート統括本部 本部長) 佐々木 志郎(執行役員 環境推進本部 本部長) 金子 豊(コーポレート統括本部 コーポレートコミュニケーションセンター 所長) 本田 雅久(コーポレート統括本部 コーポレートコミュニケーションセンター IR室 室長) 三好 晃二(環境推進本部 社会環境室 室長) ※組織名称、役職は当時のもの



本ダイアログは、社会的責任経営報告書、環境経営報告書、アニュアルレポートの3冊を統合し「サステナビリティレポート」として発行した2012年度から開催され、今回が3回目の開催となります。

今回のダイアログでは、事業戦略と活動報告の統合性、社会的責任と事業活動全体を包含した企業価値向上に向けた記載、及びマテリアリティの対象範囲の拡大と特定プロセスの記載など、レポートを作成する上で特に意識したポイントを中心にご意見をうかがいました。

有識者の主なご意見(抜粋)

評価できる点

- 大胆に2つの章(「Overview」と「Action」)に分け、Overviewで価値創造の「全体像」を簡潔に示したうえで、重要な部分についてより詳細なAction情報へ繋がるように工夫している点が、コネクティビティの観点から評価できる。
- マテリアリティに関して「情報化社会の発展」を最上位に位置つけた結果は納得感が高く「安心、快適、便利、ライフスタイルの変革」という目指す価値とも整合的である。
- 制作プロセスを通じて、事業部門とのコミュニケーションの活性化や外部から求められる情報の価値観共有がなされるなどの社内変化を生んだことは大きな成果である。



足達英一氏



海野みつ久氏



金井 司氏



三代まり子氏

今後に向けたアドバイス

- 環境について網羅的に取り組みの厚さを語るだけでなく、環境負荷削減を進めることが企業価値に結びついているかを示してほしい。環境に良い製品だからお客様がリコー製品を選択すること、環境負荷が低い製品だからリコー製品が売れているというようにセールスの実感と結びつけるような見せ方を期待したい。
- 主要な投資家は、ESGの個別の項目の中でもリスクを最優先で見ていることを助案すると、リスクに関してはまとまった形での開示が好ましい。
- マテリアリティの最重要と考えている部分は、統合報告書の大部分を占めるべきであり、統合報告の目次になるくらい重要なことである。取り組み優先順位付けも含めはっきりと分かるようにすべきである。
- ビジネスモデルの全体像、価値創造の中核にあるビジネスモデルが見えにくい。
- 財務指標やKPIの他「お客様のニーズに対応」「新しい価値の創出」などリコーの最も重要な事業目的を明確にし、それに関連する独自の指標があるとより個性を表現できる。

有識者ダイアログを終えて

リコーでは、企業価値を高めるためには、まずステークホルダーの方々に自社のビジョンや戦略、活動を正しく評価していただくことが重要だと考えています。そのためにも、リコーが目指していることに対してできた部分、できなかった部分を客観的に評価することが必要であり、その観点からも、サステナビリティレポートは重要な役割を担っていると認識しています。今回、我々の活動がどのように企業価値に結びついているのか等、まさに経営そのものを問われるような貴重なご意見をいただきました。今回のアドバイスを受け、2015年のレポートもより良いものに改善し、ステークホルダーの方々の期待に応えられるよう努力していきたいと考えています。



執行役員
コーポレート統括本部

本部長

大山 晃

※ 担当の総務名前は
当社のもの